

新規採用・削除医薬品等通知

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ラスビック錠 75mg
(英名)	Lascefloxacin Hydrochloride
(規格・含有量)	1錠中ラスクフロキサシン塩酸塩 81.23mg(ラスクフロキサシンとして 75mg)
(一般名)	ラスクフロキサシン塩酸塩
(メーカー名)	杏林製薬株式会社
【薬価収載日】	2019年11月
【薬価】	1錠;353.40円
【薬効コード】	6241
【薬効分類名】	キノロン系経口抗菌剤
効能・効果	<p><適応菌種></p> <p>本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、クレブシエラ属、エンテロバクター属、インフルエンザ菌、レジオネラ・ニューモフィラ、プレボテラ属、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)</p> <p><適応症></p> <p>咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎</p>
用法・用量	通常、成人には、ラスクフロキサシンとして1回75mgを1日1回経口投与する。
禁忌	<p>本剤の成分又は他のキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>妊婦又は妊娠している可能性のある女性</p> <p>小児等</p>
相互作用	<p>本剤作用減弱 アルミニウム、マグネシウム、カルシウム、鉄、亜鉛を含有する製剤(制酸剤、ミネラル入りビタミン剤等)、リファンピシン、フェニトイン、カルバマゼピン</p> <p>痙攣を起こすおそれ フェニル酢酸系、プロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛剤(フルルビプロフェン等)</p> <p>他剤作用増強 テオフィリン、アミノフィリン水和物</p> <p>QT延長を起こすおそれ クラスⅠA抗不整脈薬(キニジン、プロカインアミド等)、クラスⅢ抗不整脈薬(アミオダロン、ソタロール等)</p> <p>腱障害のリスクが増大のおそれ 副腎皮質ホルモン剤(経口剤及び注射剤)(プレドニゾン、ヒドロコルチゾン等)</p>
副作用	<p>重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、白血球減少、間質性肺炎、QT延長、心室頻拍(Torsades de pointesを含む)、低血糖、偽膜性大腸炎、アキレス腱炎、腱断裂等の腱障害、肝機能障害、横紋筋融解症、痙攣、錯乱、せん妄等の精神症状、重症筋無力症の悪化、大動脈瘤、大動脈解離</p>

(薬品名)	キャブピリン配合錠
(英名)	Aspirin・Vonoprazan Fumarate
(規格・含有量)	1錠中アスピリンとして100mg及びボノプラザンとして10mg(ボノプラザンフマル酸塩13.36mg)
(一般名)	アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩
(メーカー名)	武田薬品工業株式会社
【薬価収載日】	2020年5月
【薬価】	1錠;130.30円
【薬効コード】	3399
【薬効分類名】	血小板凝集抑制剤
効能・効果	<p>下記疾患又は術後における血栓・塞栓形成の抑制(胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往がある患者に限る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 狭心症(慢性安定狭心症、不安定狭心症)、心筋梗塞、虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作(TIA)、脳梗塞) ・ 冠動脈バイパス術(CABG)あるいは経皮経管冠動脈形成術(PTCA)施行後
用法・用量	通常、成人には1日1回1錠(アスピリン/ボノプラザンとして100mg/10mg)を経口投与する。
禁忌	<p>本剤の成分又はサリチル酸系製剤に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>アタザナビル硫酸塩、リルピピリン塩酸塩を投与中の患者</p> <p>消化性潰瘍のある患者[アスピリンのプロスタグランジン生合成抑制作用により胃の血流量が減少し、消化性潰瘍を悪化させることがある。]</p> <p>出血傾向のある患者[アスピリンにより血小板機能異常が起こることがあるため、出血傾向を助長するおそれがある。]</p> <p>アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[重篤なアスピリン喘息発作を誘発させることがある。]</p> <p>出産予定日12週以内の妊婦</p>
相互作用	<p>他剤作用減弱 アタザナビル硫酸塩、リルピピリン塩酸塩、イトラコナゾール、チロシキナーゼ阻害剤(ゲフィチニブ、ニロチニブ、エルロチニブ)、ネルフィナビルメシル酸塩、チアジド系利尿剤(ヒドロクロチアジド等)、ループ利尿剤(フロセミド)、β遮断剤(プロプラノロール塩酸塩、ピンドロール等)、ACE阻害剤(エナラプリルマレイン酸塩等)、ニトログリセリン製剤、尿酸排泄促進剤(プロベネシド、ベンズブロマロン)</p> <p>本剤作用増強 CYP3A4阻害剤:クラリスロマイシン等</p> <p>本剤作用減弱 イブプロフェン、ナプロキセン、ピロキシカム、スルピリン</p> <p>他剤作用増強 ジゴキシン、メチルジゴキシン、糖尿病用剤(ヒトインスリン、トルブタミド等)、メトトレキサート、バルプロ酸ナトリウム、リチウム製剤、炭酸脱水酵素阻害剤(アセタゾラミド等)、ザフィルルカスト</p> <p>出血の危険性増大 クマリン系抗凝固剤(ワルファリンカリウム)、血液凝固阻止剤:ヘパリン製剤、ダナパロイドナトリウム、第Xa因子阻害剤(リバーロキサバン等)、抗トロンピン剤(ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩等)、トロンボモデュリン アルファ等、血小板凝集抑制作用を有する薬剤;チクロピジン塩酸塩、シロスタゾール、クロピドグレル硫酸塩、トロンボキササン合成酵素阻害剤(オザグレルナトリウム)、プロスタグランジンE1製剤、E1及びI2誘導体制剤(ベラプロストナトリウム等)、サルポグレラート塩酸塩、イコサペント酸エチル等、血栓溶解剤;ウロキナーゼ、t-PA製剤等、選択的セロトニン再取り込み阻害剤</p>

	<p>(SSRI) (フルボキサミンマレイン酸塩、塩酸セルトラリン等)</p> <p>腎障害発現のおそれ タクロリムス水和物、シクロスポリン</p> <p>総フェニトイン濃度を低下 フェニトイン</p> <p>他剤減量によりサリチル酸中毒のおそれおよび消化管出血の増強のおそれ 副腎皮質ホルモン剤(ベタメタゾン、プレドニゾン、メチルプレドニゾン等)</p> <p>出血および腎機能低下のおそれ 非ステロイド性解熱鎮痛消炎剤(インドメタシン、ジクロフェナクナトリウム等)</p> <p>消化性潰瘍のおそれ ドネベジル塩酸塩</p> <p>他剤ヒト血漿蛋白非結合型分率の上昇のおそれ プロスタグランジン D2、トロンボキササン A2 受容体拮抗剤(ラマトロバン、セラトロダスト)</p> <p>消化管出血増強のおそれ アルコール</p>
副作用	<p>重大な副作用 汎血球減少、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、再生不良性貧血、中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑、剥脱性皮膚炎、ショック、アナフィラキシー、出血、喘息発作、肝機能障害、黄疸、消化性潰瘍、小腸・大腸潰瘍</p>

(薬品名)	バフセオ錠 150mg ・ 300mg	市販直後調査;2020年8月~2021年2月
(英名)	Vadadustat	
(規格・含有量)	1錠中バダデュスタット 150mg ・ 300mg	
(一般名)	バダデュスタット	
(メーカー名)	田辺三菱製薬株式会社	
【薬価収載日】	2020年8月	
【薬価】	150mg; 213.50円・300mg; 376.20円	
【薬効コード】	3999	
【薬効分類名】	HIF-PH 阻害薬	
効能・効果	腎性貧血	
用法・用量	通常、成人にはバダデュスタットとして、1回 300mg を開始用量とし、1日 1回経口投与する。以後は、患者の状態に応じて投与量を適宜増減するが、最高用量は1日 1回 600mg までとする。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	<p>本剤作用増強 プロベネシド</p> <p>他剤作用増強 OAT3 の基質となる薬剤;フロセミド、メトトレキサート等</p> <p>BCRP の基質となる薬剤;ロスバスタチン、シンバスタチン、アトルバスタチン、サラゾスルファピリジン等</p> <p>本剤作用減弱 多価陽イオンを含有する経口薬剤(カルシウム、鉄、マグネシウム、アルミニウム等を含む製剤)</p>	
副作用	重大な副作用 血栓塞栓症注(4.2%)、肝機能障害(頻度不明)	

(薬品名)	ダブロック錠 2mg・4mg	市販直後調査;2020年8月~2021年2月
(英名)	Daprodustat	
(規格・含有量)	1錠中ダプロデュスタット 2mg・4mg	
(一般名)	ダプロデュスタット	
(メーカー名)	協和キリン株式会社	
【薬価収載日】	2020年8月	
【薬価】	2mg;185.80円・4mg;327.40	
【薬効コード】	3999	
【薬効分類名】	HIF-PH阻害薬	
効能・効果	腎性貧血	
用法・用量	<p><保存期慢性腎臓病患者></p> <p>・赤血球造血刺激因子製剤で未治療の場合</p> <p>通常、成人にはダプロデュスタットとして1回2mg又は4mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。以後は、患者の状態に応じて投与量を適宜増減するが、最高用量は1日1回24mgまでとする。</p> <p>・赤血球造血刺激因子製剤から切り替える場合</p> <p>通常、成人にはダプロデュスタットとして1回4mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。以後は、患者の状態に応じて投与量を適宜増減するが、最高用量は1日1回24mgまでとする。</p> <p><透析患者></p> <p>通常、成人にはダプロデュスタットとして1回4mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。以後は、患者の状態に応じて投与量を適宜増減するが、最高用量は1日1回24mgまでとする。</p>	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	本剤作用増強 CYP2C8阻害剤;クロピドグレル、トリメトプリム 等 本剤作用減弱 リファンピシン	
副作用	重大な副作用 血栓塞栓症(0.8%)	

(薬品名)	ベオビュ硝子体内注射用キット 120mg/mL 市販直後調査;2020年5月~2020年11月
(英名)	Brolucizumab (Genetical Recombination)
(規格・含有量)	1キット(0.165mL)中の含有量:ブロルシズマブ(遺伝子組換え)19.8mg
(一般名)	ブロルシズマブ(遺伝子組換え)
(メーカー名)	ノバルティスファーマ株式会社
【薬価収載日】	2020年5月
【薬価】	1キット;142,784円
【薬効コード】	1319
【薬効分類名】	眼科用 VEGF 阻害剤
効能・効果	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性
用法・用量	ブロルシズマブ(遺伝子組換え)として 6mg(0.05mL)を 4週ごとに 1回、連続 3回(導入期)硝子体内投与する。その後の維持期においては、通常、12週ごとに 1回、硝子体内投与する。なお、症状により投与間隔を適宜調節するが、8週以上あけること。
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 眼又は眼周囲に感染のある患者、あるいは感染の疑いのある患者[眼内炎等の重篤な副作用が発現するおそれがある。] 眼内に重度の炎症のある患者[炎症が悪化する可能性がある。]
相互作用	なし
副作用	重大な副作用 眼障害、動脈血栓塞栓症 5%以上 結膜出血

後発医薬品採用通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>11月5日より</u> ゾテピン細粒 10%「ヨシトミ」 ゾテピン錠 50mg「ヨシトミ」 ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg「テバ」 ベニジピン塩酸塩錠 4mg「日医工」 フェノフィブラート錠 80mg「武田テバ」 	<ul style="list-style-type: none"> ロドピン細粒 10% ロドピン錠 50mg マイスリー錠 10mg コニール錠 4mg リピディル錠 80mg

削除医薬品通知

エイゾプト懸濁性点眼液 1%	11/5 削除
ネスブ注射液 20 μ g プラシリンジ	11/5 削除
ピクシリン S 配合錠	11/5 削除

販売中止に伴う変更医薬品通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>在庫消尽後</u> テオフィリン徐放ドライシロップ小児用 20%「サワイ」 	テオドールドライシロップ 20%

供給不足に伴う医薬品採用通知

リュープロレリン酢酸塩注射用キット 1.88mg「あすか」	11/5 採用
リュープロレリン酢酸塩注射用キット 3.75mg「あすか」	11/5 採用

適応追加通知

<p>テセントリク点滴静注 1200mg</p>	<p>【効能・効果】 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 進展型小細胞肺癌 切除不能な肝細胞癌</p> <p>【用法・用量】 〈切除不能な肝細胞癌〉 ベバシズマブ（遺伝子組換え）との併用において、通常、成人にはアテゾリズマブ（遺伝子組換え）として1回 1200mg を 60 分かけて3週間間隔で点滴静注する。 なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2 回目以降の投与時間は 30 分間まで短縮できる。</p>
------------------------------	---

<p>ヤーボイ点滴静注液 50mg</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>根治切除不能な悪性黒色腫 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌 がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する結腸・直腸癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>〈根治切除不能な悪性黒色腫〉 通常、成人にはイピリムマブ(遺伝子組換え)として1回3mg/kg(体重)を3週間間隔で4回点滴静注する。なお、他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合は、ニボルマブ(遺伝子組換え)と併用すること。</p> <p>〈根治切除不能又は転移性の腎細胞癌、がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する結腸・直腸癌〉 ニボルマブ(遺伝子組換え)との併用において、通常、成人にはイピリムマブ(遺伝子組換え)として1回1mg/kg(体重)を3週間間隔で4回点滴静注する。</p>
---------------------------	---

<p>オブジーボ点滴静注 240mg 20mg</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>悪性黒色腫 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌 がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌 がん化学療法後に増悪した切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫 がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する結腸・直腸癌 がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発の食道癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>オブジーボ単独投与時 通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注する。</p>
-------------------------------------	---